ニューヨーク補習授業校だより

# 絆・きずな

夢のふくらむ学校

令和元（2019）年
１１月２３日発行
第２８号
文責（校長）片山　隆

## 学習参観を終えて～アンケートに寄せられたご意見等とその回答

１０月に行った学習参観・懇談会のアンケートには、たくさんのご感想・ご意見・ご要望・質問等をお寄せいただきました。皆様からいただいたアンケート結果を真摯に受け止め、今後の補習校の教育活動・学校運営に生かしていきたいと思います。ご協力ありがとうございました。なお、回収したアンケート全てに個別にお答えすることはできませんことをご了承ください。（写真は、当該事項を表すものではありません。）

<table>
<tr><th></th><th>ご意見・ご要望・ご質問等</th><th>補習校から</th></tr>
<tr><td rowspan="4">授業について</td><td>① 同じ題材なのに、出来上がった製作物について内容、クオリティにクラスによって差が出ていると感じる。（幼）</td><td>①教材費は限られており、その範囲内で用意した材料を使って製作活動をすることになっています。疑問が生じないよう、学年内での共通理解を図ってまいります。</td></tr>
<tr><td>① 単元の内容を子どもたちの興味を引きつける声のトーンや説明の仕方で進められていた。日ごろから子どもの立場に立った指導をしていただき、子どもが進んで宿題に取り組むようになって感謝している。（初）<br>② 先生の説明が生徒だけでなく保護者にも伝わらなかった。あれでは生徒は混乱したまま何も学べないと心配になった。（初）<br>③ 課題を与える際、させたいこと・目的の説明が不足していて、「何を書けば良いの？」という質問が子どもから何度も出ていた。（中）</td><td>①教師がお互いの授業を参観する研修会等を通して、効果的な指導の仕方を具体的に学んでまいります。<br>②初任者は年２回、以降年１回は必ず研究授業を義務づけており、指導案の事前指導、授業参観、事後指導を行っています。また、年１回はお互いの授業を見合う授業研修も行っています。<br>③本時のねらいを明確にし、子どもにそれを伝えて、ねらいに達成できるような指導の具体について、更に指導を重ねてまいります。</td></tr>
<tr><td>① 説明が分かりやすく、生徒参加型の進め方で、とても工夫されていると感じた。（初）<br>② 参加型の授業で、みんなの意見がよく分かってよかった。（高）<br>③ 生徒に手を挙げさせる場面が一度もなかった。順番に生徒全員に黒板に書かせるので、無駄な時間が多いように感じた。ほとんどの子が途中なのに発表していた。（初）<br>④ 授業中にほとんど発言や発表がなかった。日本語で数学の単語を口にすることは大切であると思う。(中)</td><td>①②多くの子どもを授業に参加させるという意味で、順番に指名したり、前に出て発表させたりします。その際、友達の発表を確認する時間が大切です。<br><br>③④一層活発に質問や発表ができるような授業づくりついて研修を重ねてまいります。</td></tr>
<tr><td>懇談会について</td><td>① それぞれのご家庭の悩みや工夫されていることなどを共有できてたいへん有意義な会だった。（幼・初）<br>② 懇談会が、個人的な悩みの相談の場になっていたが、もう少しクラス全体の日本語レベルの話や、製作、宿題の意図、今後初等部に進級するための準備や過程での取組についての話があればよかった。（幼）<br>③ 授業の内容についてたくさんの説明があったが、懇談会なので担任と保護者との話し合いの時間を多くとるべきではないか。（初）<br>④ 授業参観の実施学年の組み合わせが前後期一緒だったので見られない授業があった。（中）</td><td>① ②③<br><br>懇談会の時間は限られているので、できるだけ効率よく皆様のご要望にお応えできるよう、内容、時間配分等についてマニュアル化し、教師と共通理解をしてまいります。<br>④ 前後期で同じ組み合わせにならないよう配慮したいと思います。</td></tr>
</table>

| | | |
|---|---|---|
| 学校運営について | ① アメリカで生まれ育った子どもが、日本人としての誇りを持ち、日本の文化歴史について興味を持ちながら生活しているのは、補習校で、国語算数数学をはじめ、いろいろな体験をさせていただいているからであると感謝しています。（幼・初） | ① ありがとうございます。お子さんの補習校通学へのモチベーション、期待に応える授業を目指し、教職員一同一層研修に励んでまいります。 |
| | ② 塾との競争に負けているのは残念である。<br>③ 補習校の最大の問題は責任の所在がはっきりしないことである。<br>④ 補習校は、親とのコミュニケーションに積極的でないように思える。<br>⑤ 教員の質の問題が大きい。（中） | ② 補習校は、学習指導とともに、保護者会のご協力により、様々な学校行事を通して日本の学校を疑似体験できる期間とお考えください。<br>③ 補習校の運営は、日本人教育審議会が責任運営を行い、校長が実際の運営を委託されています。<br>④ 補習校だより、ホームページを通して情報を積極的に発信しています。ケース会議も適宜行っています。<br>⑤ 教員の研修体制を一層充実させてまいります。 |
| | ⑥ 明らかに授業についてこられない子どもに進級進学を認めるのは疑問に思う。基準以上でなければ進級進学を認めないようにすれば、子どもも親も危機感を持って学習に取り組めるのではないか。（初）<br>⑦ 帰国予定のある児童と、そうでない児童では、補習校に通う目的な異なる。高学年になるほど差が出るため、クラスを分けるべきではと思う。（初） | ⑥ 担任、相談員、管理職で情報を共有し、必要に応じて、或いは定期的に保護者や本人を交えてケース会議を行っています。更に連携を密にして、継続的に支援してまいります。<br>⑦ 習熟度別学級は、過去に本校ではうまく機能しなかったと聞いています。また、他の補習校でも余り例がありません。ただし、継承語学級、国際学級というコースを設けている補習校はいくつかあります。ニーズの多様化に対応する必要性は感じています。学校組織・体制の根幹にも関わることなので、情報収集を進めてまいります。 |

１１月１６日にニューヨーク日本人学校、ニュージャージー補習授業校及びプリンストン補習校より６名の先生方がＬＩ校、W校の授業を参観されました。以下、参観アンケートより抜粋いたします。

・非常に生き生きと元気よく授業に取り組んでいることが分かった。日本と生活習慣が違う子どもたちが一生懸命に日本型の教育に精一杯取り組んでいることが理解できた。
・日本語環境に差がある中、また「メインは現地校」と考えているであろう子どもたちに、いかにして楽しく集中して力を付ける授業に取り組ませるか、日々悩まれているのかと想像した。
・低学年はゆっくり、中高学年はテンポよく、また内容によってじっくり取り組んでいた。国語では日本語の理解度の差が大きく、このような丁寧なケアが必要なのだと思った。
・デジタル教科書などIT機器を使われているのは本校より進んでいると感心した。
・素晴らしい取組や工夫に感激するとともに、貴重な機会をいただき感謝しています。

## 今後の日程～令和２年度入園入学受付について

### 受付及びスクリーニング日程

| | | |
|---|---|---|
| W校<br>12/7・12/14 | 9:30 ～ 10:30 | 幼児部新年中 |
| | 11:00 ～ 12:00 | 幼児部新年長 |
| | 13:30 ～ 14:30 | 初等部新１年 |
| LI校<br>1/4・1/11 | 10:10 ～ 10:55 | 幼児部新年長 |
| | 11:25 ～ 12:10 | 初等部新１年 |
| | 13:15 ～ 14:00 | 幼児部新年中 |

次年度の入園入学受け付けに向けて調査書をお送りいただいたご家庭には、今後、下記の日程に基づき順次スクリーニングの予定日時がメールで送られますので、ご確認をお願いいたします。

なお、お知り合いの方、お近くの方で補習校に興味がおありの方をご存じでしたら、是非補習校事務所までご連絡いただくようお伝えください。

左：W校幼児部のカレー試食会
右：ＬＩ校幼児部「秋祭り」での神輿かつぎ





